

平成20年度農林水産大臣賞

こうやあしざわ

『耕野芦沢集落』 宮城県丸森町

【むらづくりの経緯・動機等】

本地域は、養蚕業の衰退、地形的な農業生産条件不利地で集落住民の高齢化、過疎化の進行等により、耕作放棄地が増加していた。このため、集落の危機を打開する一つの手段として中山間地域等直接支払制度の取り組みに向けた話し合いを重ねる中で、農地の維持管理や保全に向けた気運が高まり、集落一体となって取組む組織として農家25人、非農業者5人から成る協定集落「耕野芦沢集落」が結成された。

【位置】



【地区の概要】

耕野芦沢集落

項目	内容	
規模	集落 (1集落)	
性格	機能的な集団	
農家率 (内訳)	総世帯数	76 % 25 戸
	農家数	19 戸
販売農家数 (内訳)	専業農家	15 戸 1 戸
	種農家	1 戸
	種農家	13 戸
主要作物 (作付面積)	水稻	6 ha
	ころ柿(加工柿)	4 ha
	野菜	1 ha
	たけのこ	- ha

【推進体制】

協定集落「耕野芦沢集落」は30人(戸)で構成され、「がったり村のむらづくり構想」を策定し、耕野の自然と歴史と人が調和した里山づくりを目標として掲げ、地域資源を活用した地域づくり、都市住民交流、農産物直売の拡大等の取り組みを実施している。

【生産面への寄与状況】

地形から農地が点在し、区画も狭小であるものの、担い手への農地利用集積が進み、集積目標も早期に達成された。また、農地の法面崩壊等の防止策として定期点検、農業用施設等の簡易整備の実施や、堆きゅう肥の農地への施用、湿田へのハス植栽による生物資源を保護・観察するビオトープ活動等も実施している。さらに、直売所では、地元食材を活用したお弁当販売など女性活躍の場となっている。



【生活・環境整備面への寄与状況】



昔の農村風景をである「がったり（水力利用の精米機）」の復元により、集落全体に活気がみなぎるとともに県内外からの観光客も増加している。

「がったり村」を開村し、農地や山林等の農作業体験場を創出（農地・山林オーナー制、農作業体験イベント）することで都市住民との交流拡大を図るとともに、訪れる人により楽しんでもらえるよう芦沢集落散策ガイドやマップの作成やかかわら版による情報発信も行っている。

美しい原風景に憧れてIターンが増加。出来るだけIターン希望者の要望が叶うよう、集落ぐるみで受け入れる態勢を整え活性化に結びついている。

